

造本装幀コンクールについて

1966年に始まり半世紀近く続く、出版、印刷、製本、装幀、デザインの観点から書籍を総合的に評価する、出版業界で唯一の賞。同コンクールは「美しい本」づくりを目指す意欲を高め、広く内外に日本の造本技術の素晴らしさを紹介し、読書推進、出版産業の発展に貢献することを目的としています。

1. 募集

1月下旬～3月下旬:前年1年間に発行された書籍を対象として募集。応募方法については日本書籍出版協会ホームページ(<http://www.jbpa.or.jp>)で告知する。

2. 審査会

4月下旬:学識経験者、絵本作家、装幀家・デザイナー、主催・後援団体代表により厳正な審査を行う。

3. 展示・授賞式

7月上旬:東京国際ブックフェア(於:東京ビッグサイト)において全出品作を展示し、授賞式を行う。

11月～2月:『世界のブックデザイン』として当コンクールおよび世界で最も美しい本コンクール入賞作品を展示(於:印刷博物館(文京区小石川))

4. 海外のコンクールへの応募

翌年2月:世界で最も美しい本コンクール(*注1)に日本を代表して出品され、ライブチヒ・ブックフェアにて授賞式および展示を行う。

5. 海外ブックフェアでの展示

翌年10月:フランクフルト・ブックフェアにて、世界で最も美しい本コンクール受賞作品と、同コンクールへの各国からの応募作品を展示する。

*注1)1963年から始まった世界で唯一のブックデザインの国際コンクール、Best Book Design from all over the World(世界で最も美しい本コンクール)は、毎年ライブチヒで開催されている。現在の主催者はBook Art Foundation(Stiftung Buchkunst)。本コンクールに出品される書籍は、コンクールに出品される前に、各国のコンクールで最も美しい本として選ばれた書籍である。各国からの審査員はライブチヒに集まり、世界中から集まった書籍のデザインと製作における最高の成果を評価する。毎年約30カ国・約600点が世界で最も美しい本コンクールに応募し、グランプリである金の活字賞(Golden Letter)をはじめ、金賞1点、銀賞2点、銅賞5点、荣誉賞5点の14点の受賞作品が選ばれる。日本からの応募作品も多数受賞している。なお、Book Art Foundationは、上記コンクールとともに、「ドイツの最も美しい本コンクール」を開催している。

◆原裝保存コレクション

2014年より、造本装幀コンクール応募作品で、審査後、主催団体に寄贈されたものは、国立国会図書館の原裝保存コレクションとして、外装(カバー・帯)を含めて保存されている。※詳細は下記を参照

<http://www.ndl.go.jp/> トップ>関西館>所蔵資料>関西館所蔵資料の検索方法>原裝のまま保存する複本資料

◆造本装幀コンクールに関する記事

○読書推進運動協議会機関誌 No560号 『斬新で実験的作品が見られた 第48回 造本装幀コンクールを振り返って』
柏木博氏(武蔵野美術大学教授、造本装幀コンクール審査員長)、『第48回造本装幀コンクール受賞作品』
<http://www.dokusyo.or.jp/kikanshi/pdf/no560.pdf>

○国立国会図書館月報 2014年6月号 『造本・装幀文化の保存と伝承 造本装幀コンクールと原裝保存の意義』 浜田桂子氏(絵本作家・画家、造本装幀コンクール審査員)

http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_8681207_po_geppo1406.pdf?contentNo=1

以上